2015 年度「グローバル人材論Ⅰ」開講スケジュール

「グローバル人材論Ⅰ」は、本校の学生だけではなく、一般市民の方の聴講も可能です。
一般の方が参加できる講座には、下記の「開講日」欄に「一般聴講可」と記載されています。
（ご都合の良い日程だけ参加することも可能です。）

■時　　間　　16：20～17：50（5 講目）
■会　　場　　北海道教育大学函館校 1 号館第 2 講義室
　　住所：函館市八幡町 1 番 2 号
■お問合せ　　北海道教育大学函館校マルチメディア国際語学センター（担当：外崎）
　　電話：0138-44-4365
　　E メール：hak-gogakucenter@j.hokkyodai.ac.jp

回	開講日	担当者	講義題目
1	10 月 2 日	福田・河	**イントロダクション** この授業の目的と授業計画、単位認定と評価方法等にについて説明します。受講生のグループ分け作業を行います。受講生は全員出席すること。（特別事情が有る者は前日までに申し出て、承諾を得ておくこと。）
2	10 月 9 日 一般聴講可	大橋　正明 	**シャプラニール=市民による海外協力の会の 43 年間** 1971 年に独立したバングラデシュを支援するために、翌 1972 年に数名の若者たちが創設した「シャプラニール＝市民による海外協力の会」。いまでは日本の国際協力 NGO としては最も古いが、その 43 年間に、村人による襲撃やスタッフによる長期ストライキなど、幾度もの深刻な失敗や問題に直面しました。そしてそれらをどのように捉えて糧として、自分たちの活動や組織の在り方を「進化」させてきたのかを、具体的に提示することで、NGO の在り方を考えます。
3	10 月 16 日 一般聴講可	河野　善彦 	**私のグローバル人材論** 私は過去 50 年ほどの職業生活においてほぼ一貫して海外とのかかわりの中で活動してきた（訪問した国は 47 か国、海外赴任は 3 か国 14 年）。そういった意味では国際経験が豊かな方である。しかしながら、自分自身がグローバル人材であると思っていない。敢えて言うなら「グローバル人材擬き」といったところである。 世間一般で論じられているようなグローバル人材になるのは容

			易なことではないと思うし、誰でもがなれるものでもないと考えるが、私程度の「～擬き」になることはそれほど難しいことではない。多少の努力と工夫があれば誰にでもなれる。 　体験に基づくエピソードを交えつつ、以上のようなメッセージを伝える。
4	10 月 23 日 一般聴講可	内田　賢 	**海外進出日本企業における日本人派遣者の異文化体験** 　経済グローバル化にともなって日本企業の海外進出は盛んであるが、その際に派遣される日本人は現地で異文化にさらされる。現地で慣れない環境下で仕事をする場合、さまざまな失敗がつきものである。実際にどのような失敗をし、それを克服するにはどのような考え方や行動が必要であるかを理解することは大変重要である。日本在外企業協会発行の「海外派遣者ハンドブック」中国編とアセアン編の編集に携わった経験から、実際に現地で起こる事例を紹介しながら、この問題を考えていきたい。
5	10 月 30 日 一般聴講可	伊藤　俊介 	**課題に取り組み、アイディアを形にする** **～国内外の実例から考える～** 　私が所属する「アプカス」という国際協力 NPO(NGO)のスリランカや日本での活動の変遷を紹介しながら、開発途上国の貧困地帯や僻地農村、激甚災害の被災地にはどういったニーズや問題があるかに焦点を当て、「課題の改善や解決を目指すプロジェクト立案のエッセンスとは何か？」について実例を通して参加学生と考える。また、活動地の現場で垣間見える文化ギャップやなかなか味わえない体験談を織り交ぜて、国際協力や地域開発にまつわる「喜怒哀楽」も学生に率直に伝えたい。
6	11 月 6 日 一般聴講可	山西　優二 	**多文化共生とは、多文化共生に向けての教育とは** 　世界では多様な価値・文化が対立・緊張関係をつくり出す一方、地域では多言語化・多文化化が進む中、共生・多文化共生が世界そして地域の政策課題としてまた教育課題として注視されつつある。ではこの多文化共生は、多文化がどういった関係をつくり出していくことを想定しているのだろうか。改めて「文化とは」「多文化共生とは」を問いつつ、多文化共生に向けての教育のあり様を、ワークショップを交えながら考える。

7	11 月 13 日 一般聴講可	岩崎　裕保 	**開発と環境、そして平和** 1980 年代後半からかかわってきた「開発教育」の経験から、「開発」について考えます。Development means better life. Development is sharing happiness.という視座は、人びとのより良い暮らしのための環境づくりを示しています。そこには社会が平和であるという前提が欠かせません。 グローバルとローカルを表裏一体のこととして受け止めて取り組んでいくヒトにとってのベースを見つめてみましょう。
8	11 月 20 日	福田・河	**振り返りとワークショップ** 受講学生をグループに分け、（各回後に提出したレポート等に基づき）５講義のどれか１つを割り当てる。各グループは、(1)指定された講義の概要をまとめ、(2)講師との懇談・取材から深堀した情報を集約し、(3)講義や取材活動から、海外で成功裏に活動していくにはどんな力が求められるかについて論じ、(4)その論旨をまとめて、クラスに発表する。
9	11 月 27 日 一般聴講可	有田　典代 	**日本の国際交流の変遷と役割** 戦後、日本の国際交流はどのように取り組まれてきたのかを、市民レベル、地域レベルでの取り組みを紹介しながら概観し、果たしてきた役割や意義を考察。とりわけ、学生を対象にした活動、若者が主体の活動を紹介しながら、若い世代の人物交流について考え、これからの交流のあり方を提起していく。
10	12 月 4 日 一般聴講可	池田　誠 	**国際ボランティア論** 国際ワークキャンプ、長期ボランティアプログラムなど、学生が海外でできるボランティアについての講義。また、実際に行われている大沼での環境保全ボランティアや、HIF の活動についても紹介をする。
11	12 月 11 日 一般聴講可	富野　岳士 	**日本の NGO の概要とその役割、NGO と企業の連携** 統計データを基に日本の NGO の現状を知ることで、日本の NGO の特徴（強み・弱み）を理解し、今後日本の NGO に求められる役割と課題について理解を深める。また、近年注目されている NGO と企業の連携について、NGO と企業の関係性の変化や最新の連携事例を学ぶことで、NGO と企業の連携の意義や目的、課題、連携のあるべき姿等を理解し、両者が連携・協働して地球規模課題の解決に取り組むことの重要性を認識する。

12	12 月 18 日 一般聴講可	米山　敏裕 	**インドにおけるマイクロファイナンス、ソーシャルビジネスの進展** （特活）地球の友と歩む会/LIFE では、インドにあるマイクロファイナンス、ソーシャルビジネスをすすめている機関・団体を毎年訪問している。このツアーでは、経済優先で発展するインドを反映した社会的課題、グローバル化していく世界経済の動きと連動する貧富の格差をみることができる。国際協力の在り方も多様化するなかで NGO の役割も変わる可能性もある。ツアーでの学びを紹介しながら、グローバル人材の資質について考えてみたい。
13	12 月 25 日 （予備日）		
14	1 月 8 日 一般聴講可	阿部真理子 	**地方の NGO による震災支援と国際協力** 東日本大震災において、 1．NGO はどのような活動を行ったのか？ 2．被災地に近い NGO の役割とは？ 3．活動資金をどのような形で確保していったか？ 4．活動者として IVY ユースの大学生は何を担ったのか？ 5．海外における支援活動とのつながり 6．国内における NGO による災害支援活動の将来的な展望 7．地方の NGO の置かれている状況の分析と課題 などの観点から考察する。
15	1 月 22 日	福田・河	**振り返りとワークショップ** 受講学生をグループに分け、（各回後に提出したレポート等に基づき）６講義のどれか１つを割り当てる。各グループは、(1)指定された講義の概要をまとめ、(2)講師との懇談・取材から深堀した情報を集約し、(3)講義や取材活動から、海外で成功裏に活動していくにはどんな力が求められるかについて論じ、(4)その論旨をまとめて、クラスに発表する。
16	1 月 29 日	福田・河	**最終レポート提出** 「これからのグローバルな活動で求められている力」